

事例報告②

行きたいII生きたいデイサービス 〜畑のあるデイサービスで豊かな毎日〜



特定非営利活動法人たかつき代表理事
石神 洋一

1. 自己紹介

皆様、こんにちは。タイトルについて、利用者さんにはデイサービスに行きたいなあ、と思っていたんだけど、そのうえで農園芸を通じて生きがいになって、もうちょっと長生きしてもいいかなと思っていただけのような取組みをしている、という意味を込めています。

まずは簡単に自己紹介。畑付きのデイサービスセンター「晴耕雨読舎」の概要と農園芸活動の目的、利用者さんの事例をご紹介します。

私は平成13年に法人を設立し、代表を約20年務めています。今日ご紹介するデイサービスセンター晴耕雨読舎は介護保険の通所介護事業所で、平成19年12月に開所し16年目に入っています。その他、日本園芸福祉普及協会や、日本園芸療法学会などに所属し、園芸福祉や園芸療法を普及する活動をしています。

(写真2) 敷地全景



(出典) 報告者撮影

まずデイサービスの様子を紹介します(写真1)。手前に畑や花を植える場所があり、裏山になっていきます。大阪では非常に珍しいぐら自然に囲まれた環境です。木枠がたくさんありますが、いわゆる園芸療法というレイズドベッド (raised bed) の、高さのある花壇です。これのおかげで利用者さんは足腰を曲げずに作業できます。

写真2は敷地全景をドローン撮影したものです。真ん中の建物がデイサービスで、利用者さんが過ごす本拠地です。手前は全部畑で、さらに川が流れています。摂津峡という、大阪の北摂地域ではちょっと有名な景勝地です。

(写真1) デイサービスセンター晴耕雨読舎



(出典) 報告者撮影

2. デイサービスセンター晴耕雨読舎

概要

デイサービスの形態は、正式にいうと通常規模型の通所介護施設です。利用者の方に必要な介護と機能訓練、生きがいづくりを提供し、家族の介護負担を軽減することが目的です。

利用対象者は、要介護認定を受けている方です。うち要介護1・2の方が多く、60%を占めます。要支援の方が10%程度で、要介護3・4・5の方が30%ほどいらっしゃいます。

利用者の定員は1日22名で、特徴的なのは男性の比率が高く、60%以上です。どの曜日でも男性が多いです。普通のデイサービスでは女性利用者の方が多いと思いますが、それがちょっと違うところです。

スタッフは、管理者の私、生活相談員、看護師、介護職員などで、現場に携わるスタッフは、

1日当たり7、8名必ずいるようにしています。
対象者については、認知症の方がやはり多い
です。ほかに脳血管障害の後遺症がある方、引
きこもりがちの方などです。普通のデイサービ
スとそう変わらないと思います(表1・2)。

(表1) デイサービスセンター
晴耕雨読舎 概要

開所日	月～土曜日(祝日も開所) ※年末年始休みあり
利用対象者	事業対象者・要支援1～ 2または要介護1～5の 認定を受けている方
定員	1日22名
サービス提供時間	午前9時30分～ 午後4時45分(7～8時間)
費用	介護度に応じ、利用料の 1～3割を負担。 その他、食事サービス費 (660円)、活動材料費(220 円)、お茶代(55円)。
送迎	利用料に含まれる。 ※送迎範囲は要問合せ
形態	通常規模

(表2) スタッフの配置状況

管理者	1名
生活相談員	1名
看護師	1名
介護職	4～6名

(出典) 表1・2とも特定非営利活動法人たかつきウェブサイト
<https://npo-takatsuki.org/seikou-udoku/> をもとに作成。

10月中頃撮影した動画をご覧ください。
畑の周りを一周するとちょうど100mぐら
いになっていて、散歩道にしているので、そこを
歩くような感じでご紹介します。

あきたがわ
芥川という川の上流部分です。大阪では割
ときれいな清流で、お金を払ってニジマス釣
りができます。プールみたいになっていまし
て、これが川の方から見た、畑と裏山の様子
です。

ちょうど午後の活動時間で、利用者の方
めい屋外に出てそれぞれ作業をしています。
ご自分の畑で作業をしている方も多
いです。

先ほど言いましたレイズドベッド(写真3)、
木で作った底なしの箱状のもので、腐
っていきます。これを数年に一回入れ替
えるのですが、作業を利用者の方に
していただいています。

解体したレイズドベッドの釘を抜いて
廃材にする作業や、作り直して現場に
入れていく作業があります。元大工の
利用者さんが活躍し、新たなレイズ
ドベッドやテーブルなどを作ります。
大工道具もそろっています。

木工作业では、立ち作業がしんど
い方は座って、ヤスリ掛けなどを
しています。

この3列が個人の畑ということにな
って、足腰の悪い方でも高さがある
花壇状の畑で作業しています。ご自
分で好きなものを作った、できた
ものはお持ち帰りいただくという
ことで、愛着もわき、役割にも
なり、責任感も出て、持って
帰れてうれしいという形の取
組みです。

これでちょうど100mです。散
歩コースにするために、間に何
mという標識を立てています
(写真4)。利用者さんには
できるだけ歩いて、

(写真3) レイズドベッド



(出典) 報告者撮影

動いていただきたいと思っています。
動画は以上です。

(写真4) 100mの標識



(出典) 報告者撮影

3. 農園芸活動の目的

農園芸活動を行う目的は二つあります。

(1) 生きがいづくり

一つは生きがいづくりです。やりたいこと、やりがいのあること、楽しみ、大切な人間関係があり、「生きたいな」と思っていたり、農園芸だけではなく、それを通じた人と人とのつながりというのも大事なことだと思います。

(2) 機能維持・回復

もう一つは機能維持・回復です。これは非常に分かりやすい効果、目的ですが、心と身体を動かすことによる心身機能向上と維持です。

農園芸には土を耕したり、種まきをしたり、水をやったりと、色々な作業があります。利用

者さんには、各々の身体の状態や能力に合わせて作業を提供できます。

後ほどご紹介しますが、くも膜下出血の後遺症で片麻痺、要介護5の利用者の方は、ご自分で作業したいというお気持ちが強いので、スタッフがちよつと手伝って、立ったり座ったりしながら作業します。この方にとっては、やることがあるからやっているわけです。大根が好きで、大根を大きく育てたいから水やりをするということが、結果的には訓練になっています。

我々は利用者さんに「訓練に行きましょう」とは言いません。「大根が大きくなりますよ、ぜひ水やりに行きましょう」と声をかけます。そして立ったり、座ったりができるようになる。まず心が動いて、身体を動かしていただいて、その結果、機能向上・維持・回復になることが大きな目的になっています。

(3) デイサービスは生活の一部

我々がデイサービスで農園芸に取り組むなかで大事にしていること、いつも意識しないといけないと思っているのは、デイサービスは生活の一部であるということです。

利用者さんには生活がある。通所介護は入所ではなく、在宅サービスなので、家での生活があるわけです。生活のなかに農園芸が入ること、新たな豊かさの創出になると考えています。

この女性は97歳、大正生まれです。92歳ぐらいまで島根県の山奥で農作業をされていたのですが、危険を感じるようになり田んぼに行けなくなっていました。それで大阪のご家族に引き取られました。この方は要支援で、田んぼや地べたの畑はしんどいので、約40cmの高さの畑を用意して色々野菜を作ったり、お手伝いもたくさんしてくださったりしています。それ

で昔ほどではないけれども、この方の生活というものが、大阪での都会生活ではなく、一部でも農作業をしながら昔のような生活を送っていただける。それが新たな生活のなかでの豊かさの創出になっているのかな、と考えています。

4. 利用者さんの利用の仕方(事例紹介)

デイサービスでは、どんな方がどのように利用されているのか、見ていただきます。

(1) Sさん(73歳・男性)

Sさんは73歳。63歳の時から要介護5で、約10年来ていただいています。先ほどご紹介したとおり、くも膜下出血の後遺症により右半身まひと失語症があります。

毎年、もう10年くらいずっと大根を作っています。大根がお好きなかな。奥さんが欲しいとおっしゃるのか分かりませんが。

(2) Hさん(81歳・男性)

もうお一方は、81歳のHさん。要介護1、軽度の物忘れということ、身体は割とお元気な方です。昔取った杵柄という感じで、週3回デイサービスをご利用いただいています。

Hさんはもともと京都の亀岡というところの農家で育ったので、色々なことができます。「畑仕事や大工仕事は一通りやったことがあるよ」ということで、手伝ってくださいます。

実は先程動画でお見せした畑以外にも、同じ地主さんの土地を7畝(0.7反)ほどお借りしている畑があり、ここにはレイズドベッドがありません。この畑には割と身体が動く方に一緒に行ってもらって作業するのですが、全作業の半分ぐらいはHさんに担っていただいています。「ここをお願いします」というだけで、「任しといて」と全部できてしまうので、非常に助かっています。

野菜作りの経験はもともと少ないのですが、発症前までは庭木の手入れや園芸、お花作りを積極的に楽しんでいたので、デイサービスに週1回いらっしゃることになりました。自分の畑なので、勿論お好きなものを植えていただきます。ご希望を毎年聞くと、本当に判を押したように「大根」とおっしゃいます。我々の方針としては、自分でできることはできるだけ自分でやっていただきます。要介護5の方なので、もちろんスタッフが付き添っていますが、畑の手入れはできるだけ自分でやりま

す。「頑張ってくださいね」と声をかけ、本当にできないところだけスタッフがお手伝いをするという形でやっています。大根が収穫できたら非常にうれしいので、笑顔がポツと出てきます。言葉はなかなか出ませんが、我々もそれを見てうれしくなって、またやっていただくという気持ちになります。

レイズドベッドを作る作業も一人で行われます。材木切って、ペンキ塗って、釘打って…といった作業をしてくださっています。

デイスサービスには割と身体の動く男性が数人いらっしやいます。「さあ畑に行くぞ」と、やる気がみなぎっている感じが、僕は好きですね。時々、スタッフではなく、大工仕事をする利用者さんから「所長、材料あともう3枚しかないから、注文しておいて」と言われます。「この方、ほんま認知症あるんかな？」と思うときもあります。他にも「ペンキなくなりかけているから、買ってきておいてね」とか…。そんな感じで役割を持って、元気に過ごしていただいております。

(3) Nさん(96歳・女性)

最期まで好きなことを、ということ、2年

にくく、コミュニケーションも取りにくくなってきました。それでもNさんが外に出られると、スタッフが軽いじょうろを用意して「どうですか水やりしませんか」と声をかけます。「じゃあちよつとやろうか」とはもうお応えにはならないけれど、自然に手が動いていました。

徐々に弱りながらも、以前やっていたことができるだけ続けていただく。同じ流れで自分の畑で作物を育てていただくということを続けました。スタッフの技量で、「この方、こんなやりたいんちゃうかな?」とか、「今ちよつと目が開いているから、一緒に外に行こうか」と様子を見てお声がけして、お連れしたという感じです。当然、車いすでの移動になっていました。

それでも晩年、本当に意思疎通できるかできないかというとき、「ちよつと、何か書いてくださいよ」とお声がけしました。Nさんはもと

ほど前に96歳でお亡くなりになったNさんです。最期は要介護4で、ほぼ老衰のような状態でしたが、加齢による物忘れがありました。この方も10年以上ご利用いただいていましたが、当初は要支援でした。それから加齢とともに段々体力が衰えていった形です。

とてもかわいらしいおばあちゃんでした。街暮らしだったので、畑を持っていたというわけではありませんでしたが、農園芸が生活のなかに入っていました。お庭でお花をきれいに育てたり、プランターで野菜も作ったりと、土いじりには非常に慣れていた方です。お元気な時は、レイズドベッドの横で座ったり、もたれかかったりして、自主的に作業をしておられました。8年前はまだまだお元気、立ったり座ったりは平気で、手押し車で歩いていらっしやいました。お亡くなりになる1年ほど前からは、ちよつとぼんやりされている時間も長く、身体も動き

もと習字ができる方だったので、筆をお渡しするとこう書かれたのです。

「今も幸せ、ずっと幸せ」

これをご家族にお見せしたら、「わあ、こんなん思ってくれてんや」。

コミュニケーションが取れなくなり、家でもなかなか思うにまかせないことが多くなってきた、家族も介護しながら「しんどいなあ」、ご本人にも「負担がかかっているなあ」と思っているけれども、こういうふうに書かれたので、ご家族は喜んでくれました。

うちの施設に来てこれを書いてくださったことで、我々も今やっていることが、Nさんにとって悪いことではなかったのだ、ということが理解できた瞬間でした。

5. おおめ

最後に、私が伝えたいのは、高齢者の方と農

園芸をやること、楽しいことやいいことがたくさんあるし、それは利用者にとっても楽しかったり、身体が元気になったり、気がまぎれたりして、我々スタッフにとっても、色々と利用者さんの新しい可能性を見いだしたりできます。

認知症の方には、イライラしたりした時に、逃げ場や居場所が要るのですが、農園芸が居場所になっていきます。最近では、若年性認知症の方で、今まで特に農作業の経験がなかった方でも、新たな喜びとしてやりたいという方も結構いらっしやいます。そういうちよつと新しい発見も最近あつたりして、すばらしいものだなと思います。

利用者さんの笑顔を見ていただいたら、すばらしさが分かるかなと思ひ、最後に笑顔の写真を持ってきました。

ありがとうございました。

